

人 ピープル



作文コンクール県審査で最優秀賞
土倉 拓人さん(7) 岩神町四丁目

電車などの鉄道が大好きだから

「第五十二回全国小・中学校作文コンクール」の県審査において、小学校低学年の部・最優秀賞に選ばれ

た。題は「しんだいれつしゃ・ふじのつて」。今年の夏休み、両親とともに九州の博多や長崎などを旅行し

た時の作文だ。
「鉄道が大好き。だから、行きは新幹線、帰りは寝台特急に乗せてもらったんだ。僕は列車のキーホルダーを集めていて、この時も車内販売のおじさんに売っていないか聞いたんだけれど、なかったの。僕が残念そうにしていたら、後で、おじさんが三つの寝台特急のヘッドマークをプリントしたタオルを特別にくれました。とってもうれしかったな」
旅行から帰ってしばらくして、作文を書くとした時、路面電車やロープウエーに乗ったことなど、楽しい思い出がいっぱいある中で、この出来事が真っ先に頭に浮かんだという。何度も書き直しながら、二日間かけて完成させた。
「もらったタオルは今も机の横に

しまっておりま。色が変わらないように、使わないで袋に入れて大切に取っておいてあるんだよ。おじさんも列車が好きだから、僕の気持ちを分かってくれたんだと思うな」
両親の実家が仙台市にあり、小さいころから、何度か電車で連れていってもらううちに、鉄道ファンになった。今では、時刻表もだんだん読めるようになってきている。
「来年の夏休みは四国へ旅行に行く計画なんだ。キーホルダーをいっぱい買えるよう、お小遣いを貯めておがなくちゃ。そして、大人になったら、東京駅の駅員さんになりたいな。大きい駅はいろんな種類の列車がたくさん来るから」
瞳を輝かせながら、はきはきと答えてくれた。元気な小学一年生だ。

学校じぶん 通学路などを 丹念に清掃



総社小学校

総社小では、十月三十日に特別奉仕活動を行いました。これは老人会、婦人会、PTAと一緒に全校生徒が学校周辺を清掃することで、子どもたちに地域との共生を学んでもらうことが狙い。毎年、枯れ葉が落ち始めるこの時季に行っています。
普段から親しんでいる通学路や蛇穴山古墳などの空き缶拾い、落ち葉集めを丹念に。四十分間でゴミ袋十



袋以上がいっぱいになりました。子どもと大人が協力し合って地域をきれいにするこの活動は、世代間交流にも役立っています。

Pick up ぴっくあつぷ

威勢のいい手拍子響く

千代田町三丁目にある熊野神社で十一月一日、大酉祭が行われました。同神社には「やたがらす」という二本足のカラスが祭られていて、商売繁盛や五穀豊穰、大願成就などにご利益があります。境内や参道には広域物産や甘酒、縁起物



などの露店が出店。参拝を終えた人が熊手などを購入すると、威勢のいい三三七拍子が鳴り響き、雰囲気盛り上げていました。